

ディスクスポーツ聖地に

水俣発

エコパーク 大会誘致に力

水俣市などをつくる「スポーツコミッションみなまた」は、エコパーク水俣の40超の広大な敷地を生かし、ディスクスポーツの大会誘致に力を入れている。家族連れ、若者、高齢者といった幅広い層の参加が見込まれ、地域への経済効果も期待。関係者は「水俣をディスクスポーツの聖地に」と意気込む。



アルティメットの熊本オープントーナメントで熱戦を繰り広げる選手たち＝4月27日、水俣市

地域への経済効果 期待

4月下旬、エコパーク水俣の潮騒の広場で開かれた「熊本オープンアルティメットトーナメント」。熊本県内外の大学や社会人の22チーム約270人が、ディスクを追って芝生を駆け回った。

アルティメットは7人制のチームスポーツ。縦100cm、横37cmのコートでディスクを落とさずにパスをつなぎ、両端のエンドゾーンでキャッチすれば得点になる。走力や運動量が求められる種目だ。

一方、ゴルフボールの代わりにディスクを使い、ゴールに入れるまでの投数を競うディスクゴルフは、子どもや高齢者も楽しめる。ディスクスポーツには10種目以上があるが、この2種目が盛んという。

熊本市北区の会社員、小金澤尚良さん(27)は大学時代にアルティメットを始め、就職後は社会人チームで競技を続ける。「密」になれないコロナ禍に始めたディスクゴルフの大会にも参加する「二刀流」



ディスクゴルフの大会でゴールを狙う選手＝4月21日、水俣市

で、「イメージ通りにディスクを飛ばせた時は最高に気持ちいい」という。

エコパーク水俣では2022年からアルティメットの大会誘致を始め、これまで21歳以下の九州大会や23歳以下の全国大会を開催。県フライングディスク協会の横田浩会長(64)＝熊本市北区＝は「エコパーク水俣は広く、芝生も良く管理され、アルティメットコートは4面設けられる。木立や池といった障害物もあるので、ディスクゴルフでも変化に富んだコースがつけれる」と利点を語る。

6月1、2日には第1回水俣オープンディスクゴルフトーナメントを開催。国内のプロ・アマのほか台湾の高校生ら約80人が参加する予定だ。県協会に大会誘致を働きかけたスポーツコミッションみなまたのアドバイザー米澤雅夫さん(57)＝水俣市＝は「大会への参加をきっかけに、きれいな海や豊かな自然など今の水俣の魅力を知ってほしい。旅館に泊まったり、温泉に立ち寄りたりしてもらえば、地域経済の活性化にもつながる」と話す。(久保田尚之)